

四万十川物語—第二章—
【平成9年7月25日】



《メッセージ》

THE RIVER SHIMANT

今日は『四万十川の日』（メモ）です。

四万十川物語も特集号を組みました。

私～四万十川～も、1983年（昭和58年）にNHK特集「土佐・四万十川」で“日本最後の清流”と全国で紹介されてから、はや14年が経とうとしています。お陰様で、マスコミや口コミで全国に広がり、今や「最後の清流」は私の代名詞にもなっています。大変有り難いことです。

ただ、最近「最後の清流」が一人歩きしているような気がしてなりません。私を見に来てくださる方の多くは、私の顔（水面、水質）だけを見て、「綺麗だ」とか、「大したことはないや」と言って帰っていきます。しかも、私に近づくことなく（水面まで視線をおろさずに）、ある人は車で走りながら、ある人は橋の上から見て！ 私には顔だけでなく服（川から連続した周囲の山々や白い砂州）を着た身体や手足（沈下橋など）もあり、顔だけの美人ではないと思っています。

また、洪水時には泥服を着た姿になります。

更に、忘れてならないのは、地域には明るく心の優しい方々が10万人以上も生活していることです。人々が生活し、なおかつ私との結びつきが強いのが大きな特長です。このような私を、ある人は「人々の息づかいが聞こえる川」と言い、ある人は「本物の川の匂いがする」と言ってくださいました。今の私は、この言葉が大好きです。

これからも、「日本最後の清流」の名に負けない魅力づくりに努力いたしますが、「清らかな流れ」だけなら人の住まない溪流など、全国どこにでも存在します。私は、清流も魚も人も全てが調和した自然の姿を、子供達に伝えたいと思います。NHK特集の副題が、～清流と魚と人～となっていたことを想いつつ……。

《四万十川情報》

《～一口メモ～【四万十川の日】》

現在、皆さんに親しまれている「四万十川」の名前は、昭和39年の河川法制定時、正式には「渡川」でした。

しかし、全国的には通称である「四万十川」の方が浸透していったことから、「四万十川」を正式名称にという動きが起こり、

平成6年7月25日に正式に渡川から四万十川へ名称変更がなされました。これを記念して、平成7年度に策定した

「清流四万十川総合プラン21」において、毎年7月25日を流域の「四万十川の日」とし、全国の方々の目を四万十川に向けていただく日としました。

さらに、この日を含む1週間（7月22日～28日）を「四万十ウイーク」と定め、四万十川クリーン大作戦など、県内外への情報発信を集中的に行います。

カヌーソン大会

（8月10日）

四万十川でカヌーによるマラソン大会を開催！

【参加申し込み先】
中村市商工観光課
(TEL 0880-34-1111)
7月31日まで

四万十フレンドシップ倶楽部

会員 大募集中!!

四万十川への思い入れと支援をくださる全国の個人・法人の方！（会費：無料）
問合せ先：四万十川対策室

☆四万十川の日・四万十ウイーク 関連イベント☆

- ◎源流点の森づくり(26日)：流域内外から約100名が植樹に参加し、川の源である森林を守り、育てます。
- ◎第7回四万十川クリーン大作戦(27日)：流域8市町村が心を一つに一齐清掃に取り組みます(約1万人の参加)。
- ◎全国トロッコ列車サミット(27日)：「自然を守る旅人」をテーマとしたパネルディスカッションなど。